

花巻市石鳥谷地域協議会 平成 22 年度第 2 回会議 会議録

【日 時】

平成 22 年 6 月 18 日（金）午後 2 時～午後 3 時 42 分

【場 所】

石鳥谷総合支所 3 階 大会議室

【出席者】

地域協議会委員 12 名（欠席委員：主濱芳江委員）

当局：（支所）菊池総合支所長、高橋地域振興課長、照井市民サービス課長、
各振興センター局長・局長代理 5 名（欠席：佐々木局長代理）、
地域振興課 佐藤課長補佐、高橋課長補佐、市民サービス課 吉田課長
補佐、地域振興課地域づくり係 小田島係長、熊谷主査

【説 明】

- 平成 21 年度花巻市石鳥谷地域協議会の協議内容等について
 - ・平成 21 年度花巻市石鳥谷地域協議会の協議内容、市内各地域の協議会の開催状況、県内他の自治体の広報誌の発行状況、花巻市の各種計画について説明した。

【協 議】

- 平成 22 年度花巻市石鳥谷地域協議会について
 - ・平成 22 年度石鳥谷地域における地域課題について、次回会議までに委員の方々より提案書を提出してもらうこととした。

【その他】

- ・会議を傍聴した者なし。

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

※ 会議における当日資料として、以下を配布した。

「AED 設置場所一覧」

「花巻市計画等一覧」

※ 事前配布資料は、「平成 21 年度花巻市石鳥谷地域協議会の協議内容」、「花巻市総合計画（概要版）」

※ 顛末

○ 進行 / 高橋地域振興課長

1. 開 会 菅原久男副会長が開会を宣言した。 14:00

2. 会長挨拶

ご参会をいただきましてありがとうございます。前回の会合でお約束をいたしましたとおりに、本日予定どおり開催することができました。いろいろとご都合があったと思いますけれども。この前の会議でありましたとおりに今日は、学習会という位置付けであります。したがって、具体的に、市長からの諮問等はありませんし、また、みなさんからの提案も発足したばかりですので、まとめておりませんので、学習会という位置づけの中でこれまでの経過を吟味しながら、新しい平成22年度以降のことについてお話をいただきたいとこう思います。

若干だけ、私、再任の立場で経過を申し上げますと、花巻市には上位と申しますか、花巻市総合計画審議会という諮問組織がございまして、それは市全体の関係団体の代表、そして、各地域協議会の会長、それに学識経験者として岩手大学、県立大学の教授、あるいは准教授の方が出席しています。その席で、話し合われていることは、ほぼ地域協議会で話し合われていることをベースに話し合われています。なかなか、全市的な視点でものを考える場ではございませんので、ある意味では、平面的と申しまししょうか、一般的と申しまししょうかそういう話し合いになっております。それぞれの4つの地域協議会の会長がメンバーとなっておりますので、時間外などでの話し合いをお聞きしますと、例えば、大迫の場合は、いわゆるあの県立病院の問題がありましたし、又は、図書館が総合支所の建物の場所に移動することなどという具体的な事柄がありまして、かなり議論が白熱したというふうに会長からは聞いております。また、東和の場合は、いわゆる公共交通機関の課題があり、旧東和町独自で公共交通のために大きなバスを何台も準備して運行しており、これが見直しされているとともに、なくなるということについて議論があったようで、まだそこまでではありませんが、経過の中でそのことについてずいぶん白熱したと会長からは聞いております。

花巻と石鳥谷においてはそういう意味での深刻な、と申しますか、当面の問題が比較的少なかったという経緯があります。一般的な問題が多かったと思います。このことについては、あとで、事務局の方から平成21年度分の地域についてご説明申し上げます。そういう意味で、あとでご確認いただければと思います。

さらにその事柄を踏まえまして今日は、平成22年度、23年度、私共任期は2年ではありますが、この2年間いったい何をすべきか、この機会に忌憚のないご

意見をいただければと思います。開会に当たりまして以上を申し上げましてあいさつに代えさせていただきます。

3. 説明 平成 21 年度花巻市石鳥谷地域協議会の協議内容等について地域振興課から説明した。

高橋地域振興課長 説明

(1) 平成 21 年度花巻市石鳥谷地域協議会の協議内容

資料（委員宛事前配布資料）

AED 設置場所一覧 資料 1

(2) 市内各地域の協議会の開催状況

小田島地域づくり係長 説明

(3) 県内他の自治体の広報誌の発行状況

(4) 花巻市の各種計画について

花巻市計画等一覧 資料 2

花巻市総合計画（概要版）資料（委員宛事前配布資料）

高橋地域振興課長から、花巻市の各種計画については今回配付ではなく、協議の内容、進展状況に応じて提示していくこととしたい旨、補足説明があった。

菅原昭造会長

今説明が終わりました、とりあえず次の協議でもいいんですが、何かお聞きしたいことございませんか。

板垣武美委員

示された石鳥谷地域の課題が 10 項目あります。これは、支所の課で言えば担当はそれぞれ何課になるのか教えていただけますか。

菅原昭造会長

課となると 2 つしかないのです。

板垣武美委員

係で。

高橋地域振興課長

係ですね。課となると地域振興課と市民サービス課 2 つしかないのです、係名でいいですね。

板垣武美委員

はい、係名でお願いします。

高橋地域振興課長

(1) 賑わいの関係は、商工観光係。(2) 高齢者福祉は、市民サービス課生活福祉係。(3) コミュニティ会議の関係は、地域づくり係。(4) 葛丸川流域の環境整備は、商工観光係。(5) の芸能保存、地域づくり係。(6) 地産地消、農林水産係。(7) 自主防災、総務防災係。(8) 若年層の活躍の場、地域づくり係。(9) 賢治マップの作成、商工観光係。(10) 支所の空室、総務防災係。

菅原昭造会長

総合計画を含めた12の計画のすべてが地域協議会にかけられているわけではありませんね。ということで、資料の配付については事前に今までの、地域協議会に諮問された分については、再任された委員の皆さんにお配りしているところであります。この12項目すべてが地域協議会に諮問されたわけではありません。ということで、もしも、ここの話し合いの中で、この計画が是非見たいということがあれば、そのときをお願いします。

では、説明事項についての意見なり質問はありませんか。

菅原昭造会長

それでは、次に進んでよろしいですか。

頷く者あり。

4. 協 議

菅原昭造会長

それではですね、経過を含めての協議ということにさせていただきますが、4番の協議、平成22年度花巻市石鳥谷地域協議会のありかたについて、3の説明に対する質疑を含めて話し合いに入っていきます。特に協議会の方向性については、この前の協議会で多分にあったわけですけども、さっき課長からお話があったように、例えば、宮古市のような情報誌でもいいし、久慈市の例をベースにでもいいし、これはやはり実現した方がいいかなという感想を聞きながら持っていましたが、皆さんいかがでしょうか。

板垣武美委員

説明では、県内の自治体では単独の地域協議会の事例は確認できないという説明だったと思いますが、どこの地域協議会もですね、はっきり申し上げますとなんかこう低調な姿に見えるんです。私から見ますと、花巻外ですよ、花巻の中のそうなのかもしれません。だからこそ、なんらかの形で、広報誌のような媒体を使って住民の人達に、例えば今日は資料を出していただきましたが、どんなことが協議されているかということをですね。やはり知らせることの方

向に向かうべきではないかなと思います。

菅原昭造会長

そのとおりだと思いますが、ほかありませんか。
熊谷委員さんどうですか。再任委員の立場として。

熊谷幸雄委員

前回も話しましたが、知らせるべきことは、やはり知らせなきゃならないですけど、さっき言った宮古であり久慈でありほかのところやっているとおり、その載せるスペースに該当するくらいの、審議なりこういった話し合ったことで、載せられることに限られると思います。何々を話ししました、何々を話ししました、ということだけであれば、それこそ、何行かです。今日のレジメじゃないですけども、計画を立てました、それで何々を、という形でしか載せられないのではと思います。今まで2年やってきてみて、結論が出ないことや結論が出ること、諮問があったことに対して、こういう話し合いをして、結果的に何々に意見を出して諮問に答えましたとか、答申しましたという形では、載せられるとは思いますが、こうやって、皆さんに渡した資料が3枚あるみたいになっても、その都度出た意見をまとめて、最終的にこういうふうに出たのであれば、年度末から年度末という形でできるでしょうけども、途中を載せてどういう形になるのかな、という気がします。

菅原昭造会長

率直に言って、最初も大事だし、今後も大事なわけですが、端的に言って皆さんが、実際、地域協議会のメンバーであるということすらも実は知られておりません。ですから、最初の段階でこういう形の仕組みがありますよと、そして、そのことに熱心に取り組んでいる人たちはこういう立場で出席してますよと、こういう仕組みが、当面、ある意味では書ける内容かなというふうには会長としては感じました。途中の経過の中で、やはり、記事になるのか文書になるのかということになりますと、熊谷委員のお話のとおり、筋道の立ったある意味では、マニフェストじゃないですけども、結論めいたことが出てきたときには記事に書けますけども、なかなかそうじゃない、現在進行形のものについては、なかなか記事にならないような感じがします。

皆さんの方のご意見は、どうぞ。

板垣武美委員

総合計画が今日は資料として配付されておりました、ページを開けるとまちづくりの基本理念が載っております。そこに、花巻市のまちづくりの2本柱がかかれてあります。今、最初にかかっているのは、「強くてやさしいまちづくり」というのですが、2番目にですね「市民参画・協働のまちづくり」を掲げて

るわけです。市民参画とか協働という言葉は、最近新聞なんかでも目にする機会が増えてきた言葉なんですけども、こういった審議会、花巻市の審議会はたくさんあるわけなんですけども、結果が出てから知らせるっていうのが、ひとつのスタイルなんだろうけれども、私は、大事なものは難しい面があることは分かりますが、その話し合いプロセスをですね、住民の人達に知ってもらうことがやっぱり重要なんだろうと思うんです。そういう意味で、一言一句公開しろという意味ではありませんが、会議で出た主な意見をですね、そういうことを簡潔にまとめて提示することは、市民参画協働のまちづくりのですね、理念から言ってもやっぱり必要なことじゃないのかなと、こう思うんです。実際に、そういう広報誌を出すとなると、申し訳ないんですが支所の職員の方にお骨折りをいただくわけですけれども、まあそれも仕事だということではがんばってもらいたいと思うんですけれども。

菅原昭造会長

そういうことはできるでしょうね。例えば、年3回とか2回出すということはさておきまして、なんらかの形で今の事柄をお知らせするっていうことはやっぱり大事なことだと思います。スケジュール、1年の経過を踏まえて、この地域協議会で今年は、どのような動きを皆さんは期待しているでしょうか、それとも、こうあるべきだ、というご意見などをご発言いただきたいと思います。

昨年今頃確か、議員の懇談会だったね、議員の方々をお招きして、支所の現状について、市の現状について意見交換をしました。そんなこともありまして、今度は改選でありますので新しい議員の方々、再選の方もあろうかと思いますが、議員の方々との懇談の場もやっぱり必要ということであれば、スケジュールに組みたいと思います。昨年は、ここでだったね。時期はいいんですが。

高橋地域振興課長

昨年7月21日午後6時から、石鳥谷地域の議員の皆さんと石鳥谷地域協議会の委員のみなさん方と意見交換を行っております。

菅原昭造会長

社会福祉協議会の場合は理事と市議会の福祉常任委員会のオールメンバーの懇談会。そのほか、スポーツ関係はスポーツ関係、教育関係は教育関係、それぞれの仕組みの中で議員、または市長との懇談会が行われております。

菅原委員さん、本協議会のあり方についてご発言ください。

菅原久男委員

2年間委員を体験したわけですけれども、1年目は、この地域協議会についてよく分からなくてですね、大きなくくりがあるということ、諮問機関であるということ、あとは、地域課題をいかに捉えてそれを皆さんで検討していくか

ということが本来の我々の目的なのかなと。私のように地域コミュニティ会議から出ている方それぞれですね、地域の課題というものがかなり出ていると思います。コミュニティ会議なり、活性化会議なりで。その中での花巻市全体で、全体に影響するような課題等を少しでも解決していけばいいのかな。と、まあ漠然とした意見となってしまいましたけれども。地域の課題をコミュニティ単位の地域を越えて、地域協議会でも、少しでも改善できるような方向で活動したいと思っております。

菅原昭造会長

今、話し合いのありました、去年からの宿題となりました地域コミュニティ協議会の組織を創設しようという提案があってこれはあの地域協議会の主たる目的でありますそちらの方でそういう提案をして、後は各地域コミュニティの会長さんに一任するといった方向だった思っておりますが、その後どうなったか。まだ動いてませんか。

柳原さん、お聞きになってますか。今回は、会長の人はいないようですが。

鎌田新堀振興センター局長

はい、新堀振興センターの鎌田と申します。私の方から話させていただきます。初めての方もいらっしゃるので、経緯についてお話させていただきますと、昨年ですね、石鳥谷地域のコミュニティ会議の代表の方々の会議を持ったらいじじゃないかという話があったわけでごさいます、当新堀が幹事だったものですから、3回ほど開催されまして、共通課題の、そして情報交換の場ということで考えたらいかがということで、最後のとき3回目の時、設置することで6コミュニティ会議の会長さん、代表の方々に確認いたしました。

去年までは設置することまででして、最初の会議というのは今年度になりますけれども、6月28日の月曜日なんですけども、1回目の代表者会議を開催することで、コミュニティ会議の各代表の方々にご案内しているところでごさいます。それで、最初ということで、情報交換と、どういうことをやればいいのかという話し合いに留まるのではないかと思いますけれども、そういうことで進んでおります。

菅原昭造会長

ありがとうございます。

実は、それぞれのコミュニティ会議から推薦された方が、今回はそれぞれ委員になっておりますけれども、いずれ、あの、コミュニティ会議が一番戦力もあるし財力もあるということで、そことリンクしないと絵に描いた餅になるということがありまして。7月に議員との懇談会の際にも、高橋淑郎議長が盛んにそのことを力説しておりました。それを受けて、地域協議会でも、懇談をいたしまして、会長さん方に地域づくり、あるいは組織になるのか、あるいは任

意組織になるのか、それは別にいたしまして、とにかく連絡のための仕組みを作ってほしいという話し合いがなされた結果、今のお話があったようであります。何回か話し合いがあったようですが、これから動き出しますと新たな展開が生まれるのでは、と思います。あえて付け加えさせていただきます。

ほかに、どうですか。

菅原昭造会長

さっき、民生委員のことについて、事務局から説明がありましたが、そのことについて、この際、経過について柳原さんいかがでしょうか。

柳原榮委員

挨拶でもお話があったんですが、今年の11月30日で、全委員が任期満了で全部変わります。継続になる方も新たに12月1日からスタートという方式になっておりますので、いったん全部解任。そして、12月1日から委嘱されるというシステムでございます。前回のここでも、2番目に民生委員の定数の関係で、地域協議会でお話がありましたが、ご報告のとおり花巻市長は、これ以上花巻市では減らないと言いました。経過を申し上げますと、花巻市に合併になった時点で、たぶん46名花巻市としては、“減”しなければならない。基準から申しますと、10万都市と10万以下と市町村と、こういう三段階に分かれているんです。民生委員の定員の決め方が。従いまして、前は石鳥谷町ですから、町村の基準で40名配置されていたんですが、石鳥谷の場合は。合併になって10万都市になったために、それが今言ったように、花巻市全体として、45、46名か減らさなきゃならないことになりまして、その際に、石鳥谷には10名の減が示されましたけれども、最終的には、石鳥谷は7名の減とこういうことになって、それを集計しますと、たぶん22名になりました。東和、大迫と併せて三町が減らされまして、そして今日を迎えたわけですが、今回の改選でさらに二十何名花巻市としては減らされなければならない状況だったんですけれども、今の社会情勢は、高齢化、少子化等で、大変な状況であり、福祉については大変だという認識が持たれまして、市長自ら県の方に、「花巻市の場合は減らしては困る」と、「現状維持でとにかくお願いしたい」と。そういう要望が県の方に受け入れられまして、今回は、花巻市は現状維持でということになりました。したがって、当然、石鳥谷も現状維持という形になったという、今回の改選期ではそういう状況でございます。すでに、新しい民生委員がもう推薦になっておりまして、いずれ、今現在は33名おりますけれども、33名は、12月1日には間違いなく推薦されて委嘱されるという段取りになっております。

菅原昭造会長

この21年度のこのところで、とにかく、民生委員が減らされるということで、危機感を募らせて、この地域協議会でも、再三再四議論しまして、要望書を市

長に出そうというところまで行きました。そして文案まで整いましたが、その直前に、今、柳原委員さんが言いましたように、市長が先頭きって県に掛け合ってくれたことが判明しまして、要望書は出さなかったということでもあります。いずれ、減員は避けられたということで、地域協議会としても、まず、ひと安心ということでした。

今日は勉強会ですので、何でもかまいません。そういうことで、ひとつ話し合いをお願いします。

菅原昭造会長

藤原委員さん、何かお感じになっていることはございませんか。

藤原眞紀男委員

課題に対しまして、21年度は課題の取り扱いに対しての考え方が、協議会の方でこういう考え方なんですよということではなかったわけですね。そうしますと、この考え方の、ほとんどの結果が、“したい”か“検討”か、しいて言えば“なにもしない”とこういうことになると思うんですけども。仮にですね、この課題についてはこのようにしましよと決めたという場合に、それは、振興センターの方に投げかけるという形ですか。

菅原昭造会長

皆さんの方からどうぞ、今の事柄について。いろいろあると思いますので。いかがですか、どうぞ。柳原さんどうぞ。

柳原榮委員

今のことについて、ちょっと。

菅原昭造会長

ここでね。まとまったものをどこにどういう形であげるのですか、という質問ですね。考え方がまとまらなければいいですよ。

板垣武美委員

藤原委員さんがおっしゃいましたが、私も説明を聞きながらですね、この課題は、誰がいったいどこで解決していくのか道筋のようなものが感じられなくてですね。それが、今おっしゃったように、地域毎の振興センターが中心になって解決をする範疇の課題なのか、それとも、総合支所の、先ほど担当窓口はどこですかとお尋ねしたのはそういう意味ですが、行政の方がですね、解決するために動くものなのか。あるいは一緒にやるべきものなのか。そういう取り組みの方向、役割分担のようなものがちょっと分からなかったんですが、今の藤原委員の意見に同感です。

菅原昭造会長

こういうことでしょうか。市長から諮問されたことについては、いふならばイエスかノーかですから、意見を付して賛成ですと、ただし、このことについては少数意見だけでも出すべきだということで答申書には出しました。

自主開催の場合は、そこまで踏み込まなかったですね。話し合いの流れの中では、とにかく戦力があるのは、少なくとも花巻市の場合にはコミュニティ会議だと。したがって、第1次主体としては、コミュニティ会議メンバーが必ず入っていましたし、ここで合意形成することについては、各コミュニティ会議に持ち帰って検討してもらおうということになりました。そのほかに、自主開催とは言いましても、市役所の各担当課から出ておりますので、市役所で扱うべきもの、あるいは市役所に期待するものもかなりありました。そういうものについては、正直に言うと、仕分けをしないで終わったということでありまして。この辺が、今後の課題だと思います。今はやりの言葉で言う“仕分け”作業を組むことができませんでした。

そんなところですか。よろしいですか。

板垣武美委員

私は例え話で話しましたが、大きく言って、それぞれの地域の振興センターですとかコミュニティ会議が中心となったりするケース。あるいは役所のそれぞれの部門が中心となって担当するケース。そのほかにも、コミュニティ会議以外の、体育協会さんですとか、安全協会さんですとか、コミュニティ会議以前よりもあった団体もあるわけです。やっぱりそういうところが解散しないように“仕分け”をきちっとしてあげることが必要なんだろうなと思うわけです。

菅原昭造会長

はい、そのほかはよろしいですか。

熊谷幸雄委員

そういう話の流れであれば、やはり聞いたこと、ここで話し合ったことについては、さっきの「葛丸の景観」じゃありませんけれども、出たとおり、大瀬川のコミュニティ会議で予定してますよと、それじゃそちらの方ということ。私が出した意見「協議会について」は、八日市に帰ってこういう意向ですよと、言うふうには話します。こういう流れだったと、各課の担当の人はそれであればということで返事が来る。商工会の場合は、担当課と、実際に来ている商工会の委員の答弁なりあって。地産地消であれば、農協の青年部から来た委員と話したということで、それはやり取りしているのであってその委員たちも、選ばれたっていうのではないけれどもその団体から来ているから、たぶん、持ち帰って話ししてるんだらうな、ということを前提として私は話しています。

どこで、“仕分け”何々云々って言うんだけれども、実際にここの協議会の権限がないからそれ以上進んでないのかな、という考えで今まで来ています。

菅原昭造会長

ちょっと、勢力がないのかもしれませんがね。どうぞ、ご意見がありましたらどうぞ。

田中由一委員

私初めてで、前回から参加してるんですけども、まだちょっと、よくこの協議会の役割について理解していない部分があります。確かに市の方から何か課題や議案が来て、これについて話して下さいっていう場合に、そのために集まるというのは、それぞれの立場から意見を出し合い、イエスカノーかって言うのは分かるんですが、それ以外の自主開催の時に、話し合われた議題を見ても、どっちかといえばここで話し合わなくても、それぞれ、商工会なら商工会で話し合ってるでしょうし、あとそれぞれ、コミュニティ会議はコミュニティ会議で話し合われている部分もあるのかなと思って、果たして、ここであえて取り上げる意義があるのかなってところが私は疑問なんです。あと、さっきの広報誌の件にもかかわるんですけども、やっぱりここで、ある程度こういうことを決めましたとか、こういうことをぎっちり話してきましたよっていうことを言えるような、ほかに大々的に言えるようじゃなければ、やる意味もないってことになってしまうかもしれないので、わざわざこうやって皆さん集まってもらってるんで、やっぱりそれなりの何か、ここでなければできないことを、やっぱり考えていかなければならないとは思いますが、それが何だか、私もわからないんですが。

菅原昭造会長

はい、どうぞ。

熊谷幸雄委員

それに対しては、私も前回そういう考えを持ちましたけども、結局は皆さん前回のときに勉強会しましょうという形になった。諮問以外は勉強会をしましょうという形で私はやってましたし、たぶん、前回来た人たちはそういう意味で、自分たちの知らないことについて、普通の各部門では話し合いしてると思いますけども、こうやって会って他部門の人と話し合いすることがあまりありません。商工会もありませんし、私は農協青年部にも入っていませんし、商工会にも。そういう意見交換して、自分たちがそういう勉強をしてコミュニティに帰って話できるのも勉強だし、それが、協議会の勉強の場所かなど。そして、その勉強しているうちに、方向付けができて、今言った、結論が出れば一番いいんでしょうけれど、議決権も何もないんで、それに関わった何かを諮問され

た場合に、こうやって勉強して話していれば、改めて商工会のことなら商工会話だって出して勉強してれば、たまたまという言い方悪いんですけど、その話題が出たときは、もっと深く、話し合いができるんじゃないかという意味です。さっきの説明のとおり、大迫であり、東和は決まった課題があり、旧花巻は別として、多く開催している意味はそういうことなんだと思います。課題のあるところは課題だけど、石鳥谷もそういう課題があれば、たぶん半分以上なり、三分の二は一つの課題について話し合っていたと思います。だからここで課題探しをしているというふうに見ています。商工会だけの問題じゃなくて石鳥谷の街中は寂しいね、と、あれじゃだめじゃないかっていうのはみんな思っているけど、それ以上の課題が出てきたのがこの中にある。だから、結局は22年度もこういう流れなのかなと。さっき言ったように皆さんが話してる以外に、方向付けできるような案件なり、ここで協議することが出てくればこれにぶつける。それまでは、勉強していくという流れだと思います。

菅原昭造会長

川村委員さん、どうぞ。

川村茂委員

ますます、分かりません。私はですね、コミュニティの立場で来て色々お話を聞いているということで見えています、私の感じたことをお話します。あの確かに諮問以外のものについては、あの平面的に色々なお話が出ていることは分かりました。資料として出されている内容を見ますと、発言している人の趣旨って言うか設問って言うかそれと、そして、結論として出している内容があまりにも違うんじゃないかっていう気がしてなりません。例えば、先程出ました、コミュニティ協議会の設立の提言があったようですが、その企画部会を担当しておりますので、そのことについては、会長からは話は聞いているんですが、ただその前に、私の意見として、在京町人会の継続を求めて、お金のあるコミュニティに出させたらいいんじゃないかという短絡的な話ではないかなと思って聞いているんですが、その前に私は石鳥谷町における在京町人会のあり方って言うものをきちんと話し合いしているか、あるいは、花巻市として各旧町村の中での町人会があるようですが、それらとの整合性って言うか、そういうものについての議論があったのか、まったく分かりません。そういった中で、それをしなければならぬ、あるいは、そういう方向なんだから、協議会ができるって言う話になったようですが、ここに出ている中身で、あとはコミュニティに投げた話であって、無責任な話ではないかと、私はその立場で思います。それから、もっと分かりやすい話しますと、ここの提言の中で、提言された方には失礼な話なんです、地域防災とAEDを一緒に考えて提言されて、それで、結果としてそれが何だということになれば何にもなりません。ただ、AEDがどこにある、というようなこと。それでは意味がないのです。AEDのあ

り方、防災のあり方ってというようなことについての議論があつての話だったら分かるんですけども。そういったようなことが、色々感じられてそれで、ここで結果として議論していることが最終的に何なんだ、と、いうことで分からなくなつたというのが、今の気持ちです。

菅原昭造会長

伊藤委員さん、どうぞ。

伊藤賢治委員

私も初めて、八幡の会長から出てくれと、苦言だかなんだか色々しゃべって来いと、まあ、出てきたところでございますけれども。去年のやったのを見た結果としては、確かにいろんなことを話し合われているようです。果たして、その結果どのように活かされていくかということを考えて時に、なんか、暇だれした割にはなんかちょっと物足りないなと感じております。だから、もう少し私はどれぐらいの権限を与えられているのかってということを考えて時、ただみんなが集まって話し合つて地域にもって帰つて活かすってということも、大事なことだけれども、もう少しこう、今までは今までのこととして、今度、私らは別な形でいろいろなことを話し合つてはどうかかなあと、そしたら、“こうしたい”というようなことがでてくるのかなあと、考えております。

菅原昭造会長

実は私どもは、大石市長から委員を委嘱されていて、仕組みとしては、石鳥谷地域としては最高の意思決定機関という位置づけをされております。その割には、今お話がありましたように、具体的な戦力も、手足もないというのは否めないところであります。この協議会のそもそもを少し支所長から説明をお願いします。

菊池石鳥谷総合支所長

一回目の会議で、位置づけについて資料をお示しして説明しました。これは、ご承知のとおり合併協定の中で、それぞれの地域の課題、あるいは市全体の課題をそれぞれの地域にどういう風に説明をして、代表する皆さん方に、どういう風な形で課題解決していくか、というシステムの中での機関であります。

これらの中で、取り上げる項目については、5つ程お示してありますが、その中で特に自主開催に限ってお話をする場合には、それぞれのコミュニティの地域課題もありますが、ここで求められているのは、石鳥谷地域全体に関わる共通したものということが一つ。そういう課題を、どういう風な取り上げ方をしていって、どういう風な解決の方向を見出すかということを決めていく、というこれが一つ。その検討の結果、市に求めていくもの、あるいは市より上に求めていくものがあるかもしれませんが、そういうものがあれば、意見書とし

て提出するという権限があります。それから、独自に、自分たちの地域の中でいろんな組織等が先ほどから出てますが、協働作業の中で解決していく方法があれば、そういう醸成を見つけて、そしてそれぞれの組織にこちらの方から、そのことを相談する、協議するという形のあり方もあるでしょう。それから、それなら別に、さっきの話しには出てきましたが、それぞれの組織では分かってる共通する部分もあるわけですから、それはそれで終わりになることもある。問題はですね。地域協議会としては、財政的なものはないわけです。取り上げたものの解決方法について、市に意見書を出せるようなものであれば、きちんと仕分けすることになります。そういうことになるわけです。10点なら10点とりあげたとしても、絞り込んでいって、その協議会としてのあり方を示せる一番の方向に集約をしていく、そういうのが、方法としてはあるのではないかと思います。一般論の話し合いだけしていったのでは、ただの会議に終わってしまう可能性もあります。予算ありませんけれども、権限としてあるのは、意見書として提出ができるということであり、ちょっと曖昧になりましたけれども、参考までにお話いたしました。

菅原昭造会長

意見書の話でありますけれども、去年集約されたものの中で、民生委員の定数確保は、協議会で意見書として出そうというところまでいったということは、決して無駄ではなかったと思っております。それより先に市長の方が手を打ってくれた、というだけの話であります。そういう問題は不可能もあるのかな、と、ただ、そこまでたどり着けないでいるものもあるのかな、と、一生懸命みなさんから参考意見を出してもらってそれを検討した、というところで終わっているの、それを一般の方々から見ると無駄な時間を過ごしているのかなという感じを持たれた方もあるかも知れません。

この後も、これからの姿をどうすればいいかについて、ご意見をいただきたいと思っております。

実は、昨年度の前期の場合ですけれども、毎月1回のペースでやろうという話もありましたが、やっぱり無理がありました。具体的に問題点を絞らないでとにかく集まるというのは、結果的には参会者も少なくなります。今日はものすごく出席率がいいと思っておりますよ。去年のある時期には、5人くらいしか来ないで成立しませんでした。こういうことも含めて、これからのことについてご意見をお願いします。

確かに、今までは、いろんな面で分からないなりに一生懸命にやったつもりですが、なんだか成果として見えるものがない、そう言われてもいたしかたない、そんな感じがしております。

淵澤委員さん、何か感想を。

淵澤節子委員

こういう会議に初めて参加しているわけですがけれども、まず去年度の資料を見せていただいているわけですがけれども、私も、課題の取り扱いの考え方が、何に反映しているのかちょっと。1番の場合、商工会の場合ですけども、どこに反映しているのかっていうことも、見ていると改善することとしたいという文章なので、きっちりしたようにというか、そうじゃなければ、商工会の方にお任せして、この会議に出たことをお任せして、話をしてもらって、という方向付けもあるのでしょうか。

菅原昭造会長

事務局の方からこの件について。

高橋地域振興課長

説明の方でお話したけれども、この課題が出たときはですね。顔づくり事業というのがありましたが、姿がはっきり見えない時期だったものですから、この、一部の方でやっているとかそういったような課題が出たんですが、その後、方針が示されまして、去年は、年4回ですか、商店街の活性化ということで酒蔵まつりですとか、実は実施しております。このときよりは、商工会さんの方でがんばっていただいて、前向きに向かっているんじゃないかと私は感じております。

ただし、本当に石鳥谷地域の人達がいっぱい集まっているかということ、ちょっとそこは難しいところがあるんですけども、私も、この間の酒まつりで、子どもさん方からお年寄りまで石鳥谷としては集まっている方かなと見ておりましたので、これからも、こういった事業の展開をがんばっていただきたいなと思っております。

当方としましても、商工会の方へも随時話しをしながら協力していきたいなと思います。

菅原昭造会長

新堀の鎌田局長さん、先ほどの川村委員さんの発言について何かありませんか。

鎌田新堀振興センター局長

22年度は、1回目2回目、新堀が幹事になりました。それで、うちの方で音頭をとってやることになったんですけども、確かにこの事業の中でですね、6コミュニティ会議の代表の方々と共同でやるという中で、町人会への出演というのは確かにあったんですけども、それは、一つの、その事業の中の一つでございまして、22年度の共同といいますか、会議の中で、何か町人会についてできることについては話し合っていきましょうということになりました。町人会への出演につきましては、前回の会議までは、6コミュニティ会議の共同の事

業からは、切り離してやることで決まっております。そっちはそっちですし会議は会議ということで、前回の最後の話し合いで決まっております。

菅原昭造会長

川村委員さん、そういうことなそうです。

川村茂委員

そういうことなら、今の件について、私一つ発言させていただきますが、町人会のあり方については、旧石鳥谷町時代は、東和町、花巻市の時代と、今の時代は、受け入れ態勢、送り出す体制は、まったく財源的に違っているわけですが、現実的に。そのことを議論しないままに、ただ、“行ってあげれば喜ぶからいきましょう”ということではないと思うんですが、しかしながら、相手は来てもらえるなら、お金が出ているのかその中身は分かりませんが、サービスとしてふるさとから来てもらえるなら、誰だって喜ぶと思います。改めて興行とかお金を出して頼むっていうふうな中身であれば、また議論は別だと思えます。それで、私は、この会議自体もそうなんですが、合併してこの会議を作りながら、合併したときよりもよりいい方向に行きたくてこの会議を作ったんじゃないかなと考えているわけですが、今の状況がマイナスの方向に必ずしも行ってるとは思いませんが、しかしながら、皆さんの考えている色々な地域社会が、なんか期待はずれな部分もあるし、言えば何とかなるという部分があるかもしれません。そういったことが、雑然と引き続いている。

ですから先程私がお話したことは、コミュニティにそれを相談する以前に、地域として、ふるさと、あるいは町人会というものをどう受け止めて考えるか。そのことが、花巻市の、例えばふるさと納税とかそれらとの関連性がどうあるのか。それから地域がこぞって意見として、あるいは姿勢として町人会を激励するといふのであれば、それぞれ東京へ行っている家庭からお金を集めてでもやろうとすればやれると思うんですが、そういったようなことが、話としては整理されないままに、コミュニティ会議へ短絡的に話が届くから、私が、これはまだ考えるものがあるんじゃないかな、というふうに感じているところです。

菅原昭造会長

いずれは、コミュニティ会議の連絡組織づくりについては、先程のお話のとおりですし、もともと、この話し合いの発端が町人会慰問のための資金調達のためということが先行しましたが、コミュニティ会議、局長が話ししましたとおり、会長会議レベルでは、これとは切り離したということで、新堀振興センターの局長さん、よろしいですね。

鎌田新堀振興センター局長 頷く

菅原昭造会長

当面は、どのような形になるか分かりませんが、いずれ、町人会のことについては、別枠、別協議の場で協議されるということです。

長澤委員さんいかがですか。

長澤克美委員

私は、今回、花巻商工会議所青年部石鳥谷支部長として出席させていただきましたけれども、私は地域協議会というものの存在自体まったく分かりませんで、ただ単に、支部長だからということでそういうわけで行われてきたんですけども、私たちが所属している商工会青年部として、やっていることなどが書いてありますけども、色々多岐にわたり過ぎているので、今の段階では、ちょっと私には難しい内容だと思っておりました。まだ意見をどうこうと言えないです。

菅原昭造会長

はい。鈴木委員さんはどんな感じですか。

鈴木俊一委員

はい。私も、今日初めて参加したんですけど、石鳥谷のPTAの支部の支部長ということで参加したんですけども、中身に関しては、コミュニティ関係のものが多くなると思うんですけども、PTAもどの様に関わっていくかというようになってくると思うんですけども、各PTAの行事もたくさんありまして、そちらの方の色々な行事も決めて、例えばPTAの方であれば来月7月は七夕で、七夕の竹取りであるとか、行事も入っています。そういう中で石鳥谷地域として関わっていくわけですが、たまたま昨日、支部総会がありまして、私が正式に支部長となったところなんですけど、その中で、各PTAの会長さんと色々話をした中で、例えば東和さんでは小学校の統合の話がある中で、石鳥谷はどうなんだというのがあります。河東ですか、八重畑さんと新堀、私のところなんですけど。八重畑さんが今、児童数が90名ぐらいで、新堀も120数名で、大瀬川さんと八日市さんが合併したときも、70、80名位のときにそういう話になったと聞きます。ということは、新堀と八重畑もそういうところに近づいてきてるなど、そういうことになってます。新堀も私の頃に比べると、半分位になっています。そういう話をこういう中でできればいいのかもしれないんですけど、いずれにしても、どの様に関わっていくかなというところなんです。

菅原昭造会長

去年のまとめは、それぞれの提案者が出したものでしたが、教育問題が偶然入っていないだけのことであります。是非、教育問題について今回は提案していただきたいと思います。

田中委員さん、何かないですか。

田中由一委員

はい。今のお話もあったとおり、やっぱり、それぞれの団体、例えばコミュニティ会議もそうですけど、我々や花巻J A青年部とかも、それぞれの立場で問題はあると思うんで、ないところは出さなくてもいいと思うけど、あるところは、事前に事務局なりそちらの方にこういうことについて話し合いたいたけどと事前に言って、この場の議題にしていったほうがいいと思います。あと、やっぱり、皆さん集まって一人ひとりから何か問題ないかって、無理やりでもないけど、引っ張り出すよりは、本当に実際に問題を持って人達、各PTAならPTAの集まりで出たことをこういうところに持って来れるようにしていった方がいいと思うし、また、一般の方からの声も、聞けるように、やっぱり広報もちょっとは力を入れていった方がいいと思います。

わざわざ出すのは、やっぱり、あんまり意味がないことだと思うんで、それぞれ団体で問題があると思うんで、そういうところから、実際に問題があるのであれば、この場に出していった方がいいんじゃないかと思います。

菅原昭造会長

ありがとうございます。

冒頭申し上げましたが、例えば、東和の場合ですね、学校統合で空き校舎が5つ出るんですね。それをどうするかっていうことで、かなり議論があったそうです。この場合は今お話のとおり、先の話は分かりませんがね。具体的にそういう問題があるところは、非常に熱心に、しかも来年の話ですので、だから、かなり、白熱した議論があったようです。

逆に、ここはある意味で、平穏なんですよね。強いて皆さんに発言を求めたのは、顔つなぎの意味でもありまして、無理に聞きませんので、どうぞご勘弁願います。

板垣委員さん、何かないですか。

板垣武美委員

とりとめのない話になってしまうかもしれませんが、私が、考えを持っていることはですね。コミュニティっていう定義っていうか、範囲っていうかよくわからないんですよ。例えば、コミュニティ会議っていうのは石鳥谷の場合、各公民館単位ですね。それをひとつのくくりとしてコミュニティだよと整理されてるわけですが、個人的には、私は大瀬川に住まいしていますが、大瀬川には銀行も郵便局も病院もない、“ないないづくし”のところに住んでるわけです。買い物はジョイスに行ったりしてるわけです。学校もないし、そういう生活面から考えた場合にですね、大瀬川は単独のコミュニティとして、自立可能な地域なのかと考えることがあります。もちろん、隣近所のコミュニティを否定する

ものではなくて、それはそれで大切にされなければならないんですが、私はどうも、生活をしていく上で必要なコミュニティの範囲、エリアっていうのは、やっぱり旧石鳥谷町なんじゃないかなと、いつも思っているんですよ実は。なので、今は、去年出された課題の解決の方向性ですか、コミュニティ会議が取り組めるような内容がたくさんあるんですが、それはそれで結構かもしれませんが、なんか、とりとめのない話になってきましたが、先程、柳原さんから、民生委員の話が出ましたが、私は、自分の地区以外の民生委員さんがどうなっているかまったく分かりませんし、それから今PTAの会長さんからお話をいただきましたけれど、そういう風に児童数が減ってるってこともまったく知りませんでしたので、やっぱり、そういうことを知る、機会とか場が、こういう地域協議会なのかなと、考えているところでした。

前回の会議で資料いただきましたが、諮問をする機関であるし、地域の課題を解決する機関なんだよということなわけですが、やっぱり、自分の住んでる地域の、いわゆる“ばふっと”した言い方ですが、まちづくりへの関心を高めていかなくちゃならないのではないかなと思うんです。そのためには、やっぱり、どんな課題があるのかということをきちんと理解してもらって、商工会の皆さんにも、例えば農協さんの皆さんにも、直接関わるんじゃないんだけど、一緒に考えてもらいたいと、共有してもらいたいってことが、たぶんあるんだろうなと思うんです。ということで、地域協議会って重要な位置づけではないのかなと、一生懸命さっきから考えてるんですが、なにしろ、今の市役所の政策的な方向は、27 コミュニティ会議単位を取っているんで、私は、もちろんメリットもありますが、分断されてしまっているというようなデメリットのようなものも時々感じることもあるんで、大きなコミュニティ政策っていうくくりの中で、もう少し地域協議会とコミュニティ会議の関わり、役割分担というものを、全体の中で関係性をきちんと分かりやすく示してもらおうことが必要なかなと思ってます。

最後、市長さんがマニフェストに掲げた合衆市構想というものにですね、今後大きな関心を持って見るべきだなと思っているところです。

菅原昭造会長

合衆市構想についてご存知ですか。

高橋地域振興課長

合衆市構想につきましては、当初、6月の下旬に説明予定でしたが、色々議論しているうちに、整理するところが出てきまして、私達には正式に示されていないところです。

菅原昭造会長

時代が進展してますので、新しい施策が出てくるのは当然であります。この

機会に情報伝達をお願いいたします。

総括的に、今後のあり方についてご意見をいただきたいと思います。
どうぞ。

川村茂委員

要望として、私が先程話ししましたが、合併して旧石鳥谷町の時代と新花巻市になって何がいいことがあって、何が変わったかを市民の皆さんは、もっとも分からない状態にあると思います。私自身が分かりません。コミュニティという言葉けれども、それはひとつの施策によった方向であって、果たしてこのコミュニティそのものが、宗教と同じで、信じれば大丈夫いい所へ行くよと言われているようなものだから、そうじゃなくてやっぱり、仕分けという言葉は今ありますが、そういうことを検証することもこの会議の役割じゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

菅原昭造会長

はい。これからの中で、十分議論させていただきたいと思います。今までは、良かったとか、悪かったとかの選別はあまりしませんでした。せいぜい参考になったというようなこと。段々と見えてきた面もありますし、悪かったことはあまりないかもしれませんが、少なくとも、こうしてほしいという声があると、そういうものに取り組んでいければなあというふうに感じます。

ほかに、どうですか。
どうぞ。

藤原眞紀男委員

はい。いくらか分かってきました。先程、支所長さんも言うておられましたけれども、石鳥谷全体のこと、石鳥谷地域全体のテーマであることということですから、今後どういう課題が出てくるかということは分かりませんが、少なくともその課題が出てきて、どう解決するかということは、あの、各地域の団体さん、それから、各団体さんの方々がおられるわけですから、少なくともどう解決するかという方向性だけは出されてはいいかかと思いますが、そのことをどこの課で協議するのかということは市の関係であれば、その意見書として出すとか、二つに一つと、まあどっちになるか分かりませんが、そういうもんかなあとちょっと見えてきたというところです。

菅原昭造会長

ありがとうございます。あと何か。田中委員さんどうぞ。

田中由一委員

この場をお借りして、この問題が何かと話しているところでご案内なんで

すけども、私は、花巻青年会議所って言うところにも所属しております、こちらの方で、来週の6月26日の土曜日に石鳥谷地区の合併検証会っていうのを行う予定なんです。6月5日、6日とは、大迫、東和でも行いまして、それぞれの地区で、市町村合併した後、それぞれの地区でどのような問題や、問題点が出ているのかなということを出し合う場なんですけども、それを6月26日には石鳥谷生涯学習会館にて、午後4時半から受付、5時からセミナーを開催する予定になっております。石鳥谷の商工会議所青年部の皆さんやJAの青年部の皆さんも中心になって、まだ、告知が十分じゃなくて知らないと思いますが、市民のみなさんにも参加していただいて、問題点をワークショップという形で取り上げていきたいなと思っております。ここには是非、ここにいらっしゃる地域協議会の皆さんはじめ、花巻市職員の皆さんにも是非来ていただいて、これからのこの協議会の方向づけにもなるかもしれないので、ぜひとも参加していただきたいなと思っております。そこで話し合われた内容はですね、翌日、6月27日に、花巻市でもこういった合併検証会を行いまして、そのあとすぐ、全体の取りまとめをパネルディスカッションという形で行い、各地区の問題点を話しあいます。発表しますので、こちらは、27日の午後6時からグランシェールで行われることになっておりますので、詳しくは私の方にあとで聞いていただければと思いますけれども、きっかけにもなればなと思っております。

菅原昭造会長

ありがとうございます。商工会議所と商工会が合併したことの検証会ってことですか。

田中由一委員

花巻市の合併の件です。商工会でやるのではなくて、花巻青年会議所っていう団体がありまして、一応、立場として、花巻市が合併しようという立場で合併するとき活動してきたんですけども、推進してきた責任として、実際合併して見てどうだったかということを検証しなければいけないんじゃないかということで、今回こういう風で開催するわけで、27日に市長さんが来られるような話がありますが、本当かどうか分かりませんが。

菅原昭造会長

そういうことなそうであります。それで、いける人も、行けない人も多いと思いますけども、次回、是非その中身をご紹介いただきたいと思っております。

田中由一委員

はい。

菅原昭造会長

そうすれば、川村委員さんの発言と符合します。

田中由一委員

はい。

菅原昭造会長

ほか、ございませんか。

柳原榮委員

今回、委員が大分変わりましたので、私は前回から務めてるんですが、前回も同じでした。初めて会議をしたときに、何から話して、どういう風なことを課題としたらいいかというのがあって、それでは、お互いにそれぞれの団体から出てきているわけだから、それぞれの団体で抱えている課題、あるいは個人的に考えている課題でもいいから出し合いましょうということで、アンケートというか、用紙に書いてそれをたたき台にして、石鳥谷地域としてはこうしましょうということ、2年間やったと思ってました。今回も、次回また集まって、じゃあ何から話しましょうということだとなかなか出てこない気がするので、お互いに、では次回にはこういう課題を抱えているとか、そういうことを提起しないと会議がなかなか進んでいかないんじゃないかなというふうに感じております。その中で、当然、市に対して、あるいは市長に対して、石鳥谷地域としては是非意見書として、出しましょうという課題が出てくれば、当然それは、そういう形で進めていくのがこの地域協議会かなと考えております。

菅原昭造会長

こういう前回からの感想も含めながら柳原委員さんからの発言でございました。ものを書く書かないは別といたしまして、さっき、田中委員さんからもご発言がございましたように、具体的に定義していただくことが大事じゃないかと思っております。今回は勉強会ということで終わるようですが、このことも含めて、あとでもう一回整理してということで、また、柳原委員さんのいうことも留意してということでございます。

ほか、ございませんか。

板垣武美委員

今日出していただいた、この10項目の課題は、いわゆる我々市民レベルで必要と感じている課題だと思うんです。最近、官と民の協働、官民協働などいっているようですが、実際に行政の事務を担当している職員のみなさんから課題なんて言うものは出ていないんでしょうか、ということが一つ。それから、ここには出てこないんですが、誰も思っていることが一つあると思います。それは、元の役場、今の支所の機能が、縮小していると思うんです。ここに来

る途中の3階のフロアがガランとしていることが明らかですね。はっきり言う
と役場時代から減っている、激減している、ということがあって、そういう部
分で、デメリットは生じていないのかなと思うわけで、そういったことも今後、
今日結論出すとか出さないとかじゃなくて、今後検証していく必要があるんじ
ゃないかと思います。

菅原昭造会長

ほかにございませんか。

行政の立場で、ご発言をしてもらえればという発言がありましたが、職員の
立場で、かいつまんで何か。

高橋地域振興課長

職員の立場では、ちょっと。

菅原昭造会長

我々の立場では、垣間見るだけで、内情はわからないことで、まあ、いいで
しょう。そういうところまでとしておきましょう。

今日はですね、特定の問題提起しておりませんが、この辺でよろしいでしょ
うか。後は、それぞれの職をお持ちのようでありますので、具体的に、宿題と
いうことにいたしまして、次回には、論点関係を整理して提起していきたいと
思います。

特になければこの辺で終わりにしたいと思います。

藤原眞紀男委員

次回までの宿題は何かあるのですか。

菅原昭造会長

特に用意していないですね。宿題はね。今回まだ、皆さんの意見を聞く段階
でございまして、具体的に宿題という段階ではないですね。

(高橋地域振興課長と打合せ)

菅原昭造会長

はい、柳原委員さんから発言があった事柄で、提案用紙の書式、様式がある
そうです。次回は、選挙後に会議を持ちたいと思いますが、この際、案内文書
に様式を入れて、皆さんからのご意見、提案したいことがあればそれに書いて
出させていただきたいと思います。強制はいたしません。2年間のうちに是非と
いうことで考えていただいて結構です。強制はいたしません、一つの問題は、
石鳥谷地域協議会の問題にすべきだ、という観点で考えていただきたいと思

ます。よろしくお願ひいたします。

川村茂委員

次回はいつ頃になるのですか。

高橋地域振興課長

事務局としては、いつ頃というのはないんですが、7月11日は参議院選挙がありますので。

菅原昭造会長

8月中ということに、ひとつ、調整いたしたいと思います。きょうの話し合いをベースにいたしまして、提案したいことがありましたら、是非お願ひしたいと思います。それぞれの組織で、色んな検証とか検討とかあったものについても、この際に言及していただきたいとそう思います。

高橋地域振興課長

そうしますと、提案用紙を整理いたしまして個々にお送りするという形にしてよろしいでしょうか。

それでは、7月いっぱいくらいという形で、よろしいでしょうか。

菅原昭造会長

そんなに急かさないでくださいな。

高橋地域振興課長

論点を整理してということになりますと、開催は8月中旬かと。

菅原昭造会長

それではあの、用紙については、7月の末頃までに届きましたならば送っていただくことにして郵送いたしますので、ご検討いただきたいと思います。参考になりますのは、21年度の中身であります、まったく違った観点からで結構であります。これはこれでこういう形で提起し、こういう形で処理し、その結果こういう問題点が残っていますよ、という報告でございます。これにこだわる必要はございません。

それでは、協議は終わらせていただきまして、その他。皆さんの方から何か、ございますか。はい。

5. その他

板垣武美委員

すみません、ちょっとタイミングを逸しましたが、広報、地域協議会だより

のようなものの取り扱いは。

菅原昭造会長

それは、出す、という方向で。

板垣武美委員

はい。

菅原昭造会長

時期についてはちょっと今、あれですが。少なくとも、こういう方々が、こういう取り組みをしているという記事にしかならないと思いますが、出すようにしたいと思います。よろしいですね。

あと、ございませんか。

菅原昭造会長

なければ、閉会を、どうぞお願いいたします。

6. 閉 会 菅原久男副会長が閉会を宣言した。15：42